

# 本学歯学部学生の医療倫理に関する意識調査報告

## — 第二報 6年生対象パイロット調査結果 —

A Questionnaire Survey on Tsurumi University Dental Students'  
Awareness of Medical Ethics

— A Pilot Study on Sixth-Year Dental Students (Second Report) —

島田 道子・関根 透

Michiko SHIMADA and Toru SEKINE

「鶴見大学紀要」第52号 第4部

人文・社会・自然科学編（平成27年3月）別刷

## 本学歯学部学生の医療倫理に関する意識調査報告

### — 第二報 六年生対象パイロット調査結果 —

#### A Questionnaire Survey on Tsurumi University Dental Students' Awareness of Medical Ethics — A Pilot Study on Sixth-Year Dental Students ( Second Report ) —

島田 道子・関根 透

Michiko SHIMADA and Toru SEKINE

#### 1 緒言に代えて—調査の意図と方法

筆者らは本紀要前号（第51号）で2012、2013年に本学1年生を対象に行ったパイロット調査結果を報告するとともに、筆者らのうち関根が過去に本学の予防歯科学講座の北村中也教授（当時：現名誉教授）等と行ったアンケート調査結果と比較検討して学生の意識動向の変化を探った<sup>1)</sup>。本稿は第二報として、2011年、2013年に本学6年生を対象として行ったアンケート調査を取り上げる。

関根らの先行する調査で比較的新しいものは1990～91年の調査によるものであるが、この時期はちょうど医療倫理の教育を巡る環境が大きく変化した時でもある。1989年に歯科医師国家試験の出題基準が見直され、医療倫理が入り、1991年の国家試験には実際に出題された<sup>2)</sup>。新しい世紀に入ると、2001年にいわゆる歯学教育のモデル・コア・カリキュラム<sup>3)</sup>が発表された。この中で医の倫理がコア・カリキュラムとしてその必須の具体的内容と共に明記され、CBT、OSCEという共用試験が試行されたのも同年である<sup>4)</sup>。モデル・コア・カリキュラムは2007年に改訂版がでているが、今回のアンケート調査に応じた学生は、留年していない場合、ちょうど2006年、2007年度に入学した学生であり、医療倫理に関わる知識が歯学教育の必須項目である認識が浸透、定着した環境の中で勉学をしたことがわかる。それに対して、関根らが以前にアンケート調査を行っ

た学生たちはまだ大学での勉学途中で変化が起きた初期段階にあったといえる。その違いは意識調査結果に反映しているのだろうか。歯科医師国家試験を目の前にした6年生でも、関心や知識の範囲がかつてより狭い現代の若者の精神傾向ゆえに、むしろかつてよりも倫理への関心も意識も低いのだろうか。本稿では調査結果とその比較検討を通じて、学生のあらたな意識動向の一面を示すとともに、今後の倫理授業やカリキュラムの構築、特に今回は6年生の「倫理」授業作りの一助としたい。またこれはあくまでパイロット調査であり、これを元にさらに徹底した調査を行うことができるよう、改善点を確認したいと考えている。

今回のパイロット調査でも、第一報で述べた1年生と同じアンケート調査票を用いた。これは過去の調査項目を下敷きとしながらも質問の問い方や選択肢の内容など多少の改変を加えたものである。フェースシート部分に関しても、学生の個人情報に触れるおそれのある項目は外し、簡略化した。今回は質問項目をごく基本的な内容6項目にとどめ、医の倫理の内容に深く入りこむ質問は含めなかった。調べてみると、医の倫理の各論的な項目についてのアンケートはあっても、本調査のようなごく基本的な事柄についてのアンケートは本学の調査以外あまりなされていないようでもあり<sup>5)</sup>、過去に沿う内容にした次第である。

以下に調査に用いた質問表を挙げる。

#### 質問票

(調査日 平成 年 月 日)

(該当箇所の□の中にレ印をご記入ください)

性別： ☐男

☐女

学年：☐1年生

☐2年生

☐3年生

大学：☐北海道・東北

☐首都圏

☐中部・関西

大学 ☐国公立 ☐4年生 ☐中国・四国・九州  
☐私立 ☐5年生  
☐6年生

- 
1. あなたが歯科医師になったら、どんなことで医療倫理を実践したいと思いますか。
    1. 患者の信頼を得るようにする。
    2. 患者に親切にする。
    3. インフォームドコンセントに心掛ける。
    4. 技術の向上に心掛ける。
    4. 患者の意見を尊重する。
    6. その他 ( )
  2. 歯科医療においてどんな点に配慮したら社会的責任が果たせると思いますか。
    1. 患者のために自己を犠牲にする。
    2. 歯科医療の発展向上に努める。
    3. 博愛精神を以て診療する。
    4. 営利を考えずに診療に専念する。
    5. 地域住民のために献身する。
    6. その他 ( )
  3. 現在の歯科医療において医療倫理が実践されていると思いますか。
    1. 過度にされている。
    2. 不十分である。
    3. 現状で十分である。
    4. わからない。
  4. あなたは教科書以外に医療倫理に関する本を読んだことがありますか。
    1. 日頃読むように心掛けている。
    2. かつて読んだことがある。
    3. あまり読まない。
    4. 読んだことがない。
    5. 常識だから読む必要もない。
    6. その他 ( )
  5. あなたは医療倫理の講義を、主にどんな科目でできましたか。2つまで
    1. 倫理学
    2. 歯学概論
    3. 総合科目
    4. 臨床実習
    5. 社会歯科学
    6. ない、忘れた
  6. 何学年頃に医療倫理についての講義を聞いたと思いますか。2つまで
    1. 1・2年生
    2. 3, 4年生
    3. 5年生
    4. 6年生
    5. ない、忘れた
- 

各質問における選択許容の数は、5, 6以外は特に指定しなかった。その結果1, 2に関しても複数回答もかなりあった。グラフはすべて総回答数に対する割合を示したものである。

なおフェースシートの項目の幾つかは今回の報告対象には必要のないものであるが、今後過去同様、他学年、他大学に対しても調査をする可能性を視野に、記載することにした。

また今回も呼びかけた学生への参加は自由とした。そのためアンケート回収率は過去より低く、また受講人数も減少しているため、今回の報告においても2年間を総合した結果を用いることにした。アンケートは6年次後期必修科目「総合歯科医学」の受講生に対して、2011年12月15日（2011年度6年生）、および2013年1月17日（2012年度6年生）の授業後に実施した。受講対象学生数（在籍者数）は合わせて271名（11年度133名、12年度138名）、回答用紙を提出した学生は149名（11年度78名、12年度71名）で、受講対象学生の約66%である。

## 2. アンケート結果

### 1) フェースシート部分

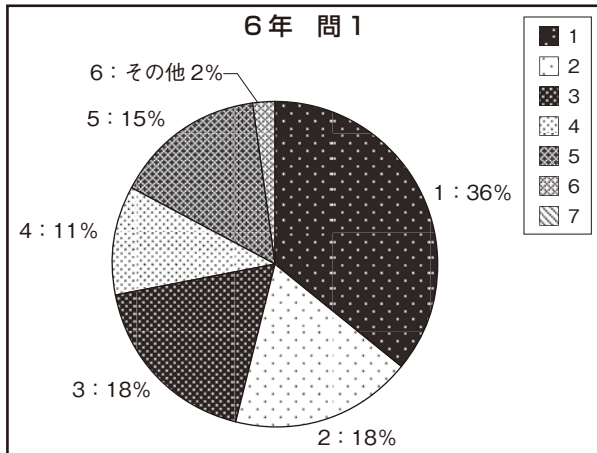
今回の報告では大学、学年は皆同一（鶴見大学＝私立、首都圏6年）なので省く。

男女比は男性71名、女性76名、無回答2名で、男性48%、女性51%、不明1%だった。

### 2) 問1

歯科医師として実践すべき倫理を問う設問である。それぞれの選択肢のパーセンテージは次の通りである。なお本稿で挙げるパーセンテージは、四捨五入の概算である。最も選択が多かったのは1(患者の信頼を得る)で36% (86人)、次に3(インフォームドコンセント)の18% (43人)、2(患者に親切)の18% (41人)、5(患者の意見尊重)15% (34人)と続き、4(技術の向上)は11% (17人)と6(その他)を除き最も低かった。(グラフ1参照) 6(その他)は4人で、意見としては3, 4を組み合わせた「患者の意見を尊重できるように技術の向

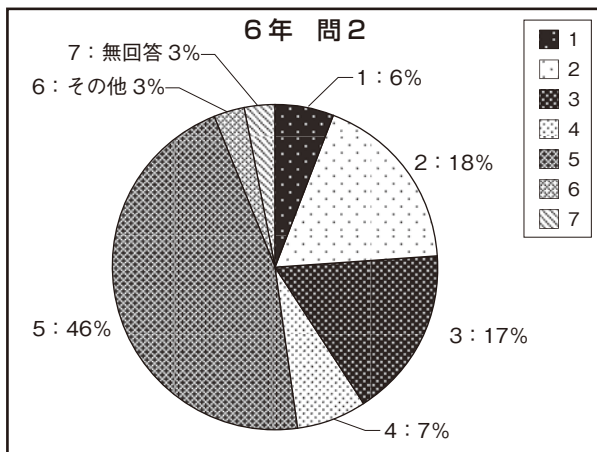
上に努める」という記載、「病気を治すだけでなく患者の心理・社会的ケアをも行いたい」、「自費診療」という記述があった。なお複数回答が約20%（30人）あり、そのため上記の延べ人数は回答者数を大きく上回る。二つ選択した者は7人（11年1人、13年6人※以下内訳は同順で示す。）三つ選択5人（1,3）、四つ選択5人（1,4）、全て選択が13人（3,10）いた。複数回答のうち全部をとった者が最も多かった点は興味深い。



グラフ 1

### 3) 問2

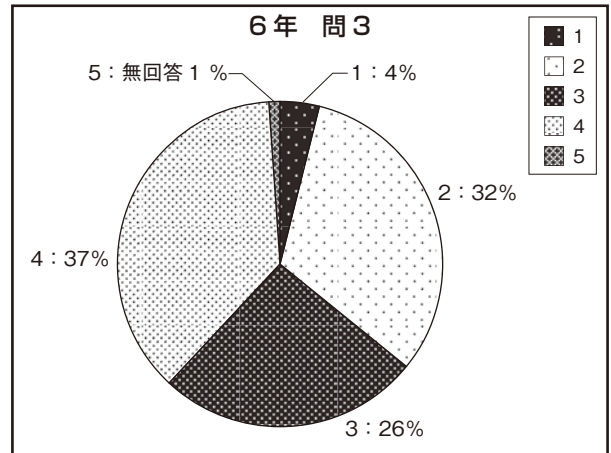
歯科医師の社会的責任への配慮を問う。最も選択されたのは5（地域住民のために貢献）の46%（80人）、次いで2（歯科医療の発展向上）で18%（31人）、3（博愛精神）17%（29人）、4（営利を考えずに治療）7%（13人）、1（患者のための自己犠牲）6%（11人）と続く。6（その他）には5名がチェックし、「営利が社会的責任」、「税金を収める」、「審美的な自費治療」という記載があった。無回答5人（グラフ2参照）。この問いも1ほどではないが、複数回答があった。二つ選択が7人（11年度1人、12年度6人）、三つ選択が3人（1, 2）だった。



グラフ 2

### 4) 問3

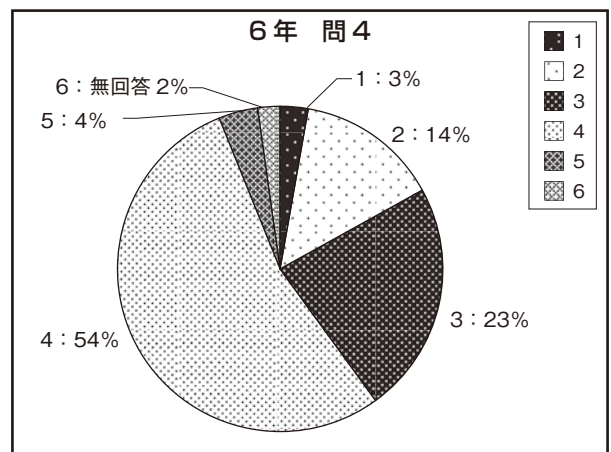
医療倫理実践状況について問う。最も選択されたのは4（わからない）で37%（56人）、次が2（不十分である）で32%（47人）、3（現状で充分）26%（39人）と続く。1（過度）は4%（6人）と最低だった。無回答は1人（グラフ3参照）である。なお1の選択肢に「面があると思う」という文言を足した者がいたが、これは興味深いことに思われる。



グラフ 3

### 5) 問4

医療倫理関係の読書経験を問う。最も多く選択されたのは4（読んだことがない）で54%（79人）、次いで3（あまり読まない）で23%（35人）、2（かつて読んだことがある）14%（21人）、5（読む必要がない）4%（6人）、1（読むように心掛けています）3%（3人）、無回答3人という結果だった。（グラフ4参照）

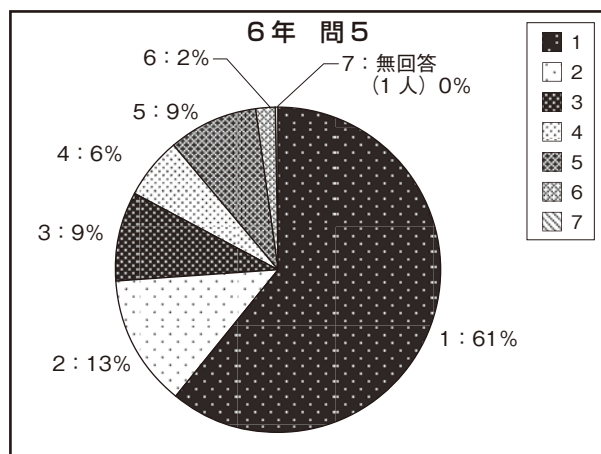


グラフ 4



## 6) 問5

医療倫理の講義を聴いた科目を問う。選択を二つまでと指定しているが、二つ選択者が23名、指定を無視し、三つ選択者が2名いた。なお本学1年では「倫理学」で日本の医療倫理の歴史を扱っており、現代の医療倫理にも触れている。統合科目の「医療人間科学」でも医療倫理に触れる。2年では2006年度生の場合「倫理学Ⅲ」、2007年度生の場合選択必修科目で「生命倫理学」が、医の倫理を中心とした科目として開講され、毎年多くの学生が受講している。5「社会歯科学」は4年次の科目で医療倫理の講義もある。6年では3に入る統合科目として「総合歯科医学」が開講され、そこで特に国家試験を念頭に医療倫理についての講義が組まれている<sup>6)</sup>。まさにその講義の後でこのアンケート調査を行ったのである。



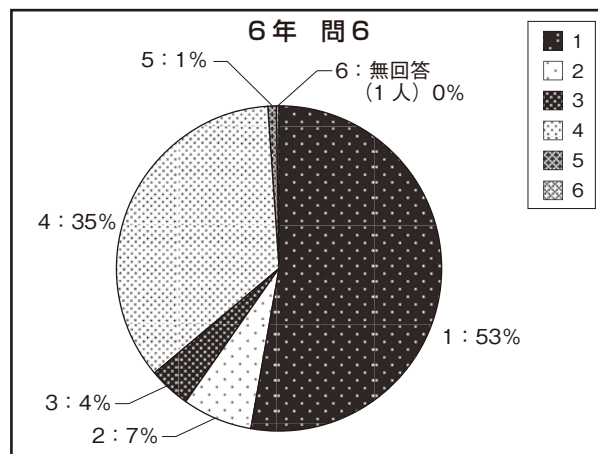
グラフ5

グラフ5は総回答数に対する割合を示したものであるが、回答者数に対する割合を見ると、91% (136人) が1(倫理学)を選択している。同様に回答者数に対する割合で示すと、次に2(歯学概論)で約20% (29人)、5(社会歯科学)13% (20人)4統合科目13% (20人)4(臨床実習)は約9% (14人)6(ない、忘れた)は3% (5人)7(その他)に記載する者はなく、無回答1人であった。選択肢1つのみ挙げた学生は50% (74人)、二つの選択肢を取ったのは48% (72人)、指示にあわないが三つ挙げている学生もいた。2の「歯学概論」は、今では開講していない講義課目だが、なにか別の、たとえば似た内容を推測させる「医療人間科学」と名前を取り違えた可能性もある。

## 7) 問6

医療倫理を学んだと思う学年を問う。これは二つ選択した学生が92人 (62%)、一つのみは38人 (38%) だった。各項目の比率はグラフ6に示したが、回答者数に対

する割合は次のとおりである。1(1,2年生)84% (125人)、4(6年生)57% (85人)2(3,4年生)11% (17人)、3(5年生)7% (10人)、5(ない、忘れた)2%、無記名が1名。本学のカリキュラムではまずは1と現在受講している4を挙げるはずと考えたが、この設問が「聞いた」と過去形での問いなので、あえて挙げなかったのかもしれない。



グラフ6

## 3. 比較と検討

前述した関根らの過去の調査をまとめた諸論文は当然ながら質問の内容には互いに異同がある。また下敷きにした質問票はその内の一つであるが、すでに述べたように、多少の変更を加えた。以下では、主として内容的に近い論文を選び、質問項目の異同を明らかにしつつ比較検討することを中心に、学生の倫理意識の動向を推察してみたい。参照したのは、筆者のうち関根らの研究報告 (1)「歯学部学生の抱く医の倫理について一本学歯学部学生の学年別に見た意識調査結果」<sup>7)</sup> (2)「医の倫理観に関する歯科学士の意識」<sup>8)</sup>、古いが (3)「歯科学士6年間に於ける医の倫理観についての意識変動 第1報 本学学生の意識調査結果」<sup>9)</sup> である。また場合によって前回報告した1年生への調査結果やその他の資料をも参照する。

1) 問1について: 一報でも述べたように、過去のものとは質問形式が異なり、選択肢1、2、4について実践の程度を「常に」「時に」「平常心で」の3段階に分けて尋ねている。「社会的責任を果たすようにしている」という設問は今回省き、新しい生命倫理的倫理で重要とされる二つの項目3インフォームド・コンセント、5患者の意見の尊重、を付け加えた。質問形式は異なるが、「患者からの信頼」が最も意識が高く、「患者に親切にする」が次に高率なのは上記過去の報告 (1) と (2) の報告と同様であった。技術の向上の率が比較的低いのも過去の調査と同様<sup>10)</sup> であり、学生たちは医の倫理を「患

者との人間関係の中で…略…把握すべき<sup>11)</sup>と考えていることが伺える。また新たに加えた3, 5の項目を選ぶ学生の合計が回答総数の33%になり、これは一報で扱った1年生と比較しても微増しており、倫理実践の具体的方策に関して、生命倫理の考え方に即してより具体的な形が浸透していることを示唆している。また1年に比べ複数回答が非常に多かったこと、技術の向上を信頼獲得の条件として挙げている意見、全人的医療につながるような「心理的、社会的ケア」まで考える意見など、過去の報告や1年生に比べて意識の高さが窺えた。最も古い報告(3)では他と異なり質問が「よき医師像」であるが「親切的な医師」が6年生で約61%、「信頼できる」の22%を大きく引き離してのトップである<sup>12)</sup>。技術力は1%でしかない。「親切」は「信頼できる」に比べより情緒的な良さの捉え方のように思える。時代を経るにつれ、より具体的な内容を患者主体の視点で自問するようになっていえる。新しいパラダイムの倫理教育が効果を挙げている兆候ではないだろう。

2) 問2について：医師の社会的責任を問う設問である。変更がある。一報と重複するが、過去の調査は医師の配慮を問い、「患者の身になって診療する」「患者を良心的に診療する」の項があり、それが一、二位を占めている<sup>13)</sup>。今回これは他の選択肢と比較するのは不適切とみなし、省略することにした。また「地域住民への献身」と「その他」の項を設けた。今回は「地域医療への貢献」が46%で一位となり、二位の歯科医療向上(18%)を大きく引き離している。四位「非営利的」は、7%で微増、博愛は17%とかなり増え、逆に六位の自己犠牲は過去現在ともに同じくらい非常に低い。

「地域医療への貢献」の割合は1年生の結果よりもかなり高く、この意識の高さはおそらく本学の教育がこれを強調するために教育の中でさまざまな試みをしていることも一因となっているのだと思われる。一方、非営利的であることを取る者は、以前より微増はしても相変わらず今回も少なく、1年生と比べるとずっと比率は落ちている。しかし金銭と関わる辛口の意見が複数挙がっている。「営利的」なことはむしろ責務という意見は一理ある。実際に職業に就く時が近づいている6年生にとっては切実な問題であり、「非営利的」という選択肢に偽善的なものを感じたのかもしれない。「営利」に大きな価値を置く時代的傾向も影響しよう。この項も複数回答が目についた。今回の調査の特色のように思う。

3) 問3について：医の倫理の実践度を問う設問である。1年生同様、過去との結果に違いがでた。「分からない」の回答は過去の調査では10%前後という結果<sup>14)</sup>に対し、1年生ほどではないが37%で第一位である。「過度」「十

分」の割合がともに過去より少なく、また「不充分」が過去よりも低い、二番目に多い(32%)という結果も1年生と同様であるが、その差は1年生の場合ほどではない。過去に比べて「不充分」と「わからない」という否定的判断が「十分」「過度」の倍以上という結果は倫理実践の理想が高くなったことを示すとともに、1年次ほどではないところには、臨床実習等の実地体験を通じて、形式的な「倫理」を無条件的に振りかざすことへの疑義を感じている学生がいることを示唆してはいまいか。それは一人の学生が「過度である」という選択肢に「という面があると思う」という言葉をわざわざ付け加えているところにも窺える。だが実は自分として考えようとするこのような問題提議から本当の倫理的思考が深まるのであり、よい傾向と思われる。

4) 問4について：読書経験を問う。結果はおおむね第一報の1年生の場合と同様である。かつては80%以上が読書経験のあるほうだったのに対し<sup>15)</sup>、今回の結果では逆に「ない」「あまり読まない」が80%近くいる。今回の否定的結果は70%弱であった1年生よりもラディカルである。専門の学業に追われる毎日が自由読書のゆとりを奪っているのかもしれない。またそれ以上に、一報でも述べたように、他の表現手段(映像・漫画等)の発達や情報収集手段の多様化(インターネット等)によって本を読むことの意義や相対的価値にかつてほどの実感が持てないのかもしれない。いずれにせよ、授業の中でも現在の状況に応じた形で学生による読書経験の機会をもっと与える必要を感じさせる結果であると考ええる。

5) 問5、6について：この質問は今まで受けた医療倫理関連の授業が同定できるかを問うている。医療倫理の教育をどれほど意識し、また記憶しているかが問われる。過去の調査では6年生の結果のわかる(1)では「歯学概論」が66%で圧倒的一位、1年「倫理学」は約16%しかない。(2)は全学年集計だがやはり「歯学概論」が34.4%で一位、1年倫理学は30.8%で二位、(3)で6年生のみ「倫理学」が50.3%で一位、「歯学概論」は24.2%で二位だった<sup>16)</sup>。むろんこの結果は、過去の調査の場合は「倫理学」では医療倫理が部分的に扱われていたという事情も影響している。今は1年生の場合で81%、今回の6年生では91%が「倫理学」を選んでいる。新しい調査時では「倫理」の講義が歴史的にはあるが医の倫理のみをテーマとして扱っている。以前と異なり1, 2年の年倫理を主たる医療倫理の時間として捕らえる理解が圧倒的なのは当然かもしれない。しかし、第一報でも述べたように、やはり問題なのはそれでもこの理解がない学生がいまだにいることである。1年倫理は医療倫理の歴史を通じて倫理の心を学ぶ授業である。そのためこの少数者にはイメージが結びつかなかったの

かもしれない。第一報の繰り返しになるが現代医療倫理の学習を形式的知識吸収のみに集約しない理解を全ての学生に持たせることが必要だと考える。1年同様に6年になっても開講されていない歯学概論を選択した学生が16名、「忘れた」は5名もいる。このような関心の低い学生が存在も忘れてはならないだろう。さらにたった今終えたばかりの、まさに医療倫理に特化した授業（総合歯科医学）は4に含まれるが、これを選んだのは20%に過ぎない。これは選択肢記載の不備も反省しなければならぬ結果であるが、やはり学生の理解力の不足が懸念される結果である。

#### 4. まとめ

以上のように回答を検討した結果、次のようなことが推論される。第一に新しい患者中心の医療倫理観はかつてのみならず、1年生よりも学生の中にも浸透していることが、特に設問1, 2から推測される。第二に今回の結果からは学生の批判力が上がっていることも伺えた。明瞭にそれが現れているのは1, 2のその他の欄に書かれた意見である。特に経営面の問題や工夫を挙げているところには一面的な倫理理想を掲げがちな傾向に対して、営利性を無視すべきでないという批判がある。歯科医院経営を巡る厳しい環境だけでなく、医療界全体が多くの経営的問題を抱えている。この批判には理想の倫理と現実の運営条件の間の看過すべきでないディレンマへの意識が透過できる。またかなりの学生に見られた選択肢全部の選択には倫理的価値へ優先順位をつけることへの疑義が感じられる。さらに設問3の結果も医療現場を支配する倫理のパラダイムへの一抹の問題意識が見えるように思われる。新しい医療倫理が浸透するにつれ、またその負の部分も意識されるようになってきた背景も影響しているのかもしれない<sup>17)</sup>。第三に4の個人的読書に関する結果は過去だけでなく1年次よりも悪かった。学生をとりまく情報環境の変化のせいなのか、関心の低下をあらわすものか明らかにすべき課題である。最後に5, 6について、さすがに1年生より質問の意味の取り違えは少なかった。1, 2年の倫理授業の内容が医療倫理に関わるものであることは今までの調査で最も認識されているが、高学年でなされる授業に関しての意識は低い結果であった。

筆者らはすでに、第一報で報じた一年次アンケート結果の検討・反省から質問項目の付加、改案した質問票を作り、2013年度に同様のアンケートを実施している。今回の検討も踏まえ、さらにより明白に現実を把握できるアンケートを目指しブラッシュアップを図ってゆき、授業改善の参考材料を提供してゆきたいと思っている。

なお今回も、本学歯学部阿部道生生物学学内准教授

にデータ集計のフォーマット製作にご尽力いただいた。ここに心からの御礼申し上げたい。

#### 註および参考文献

- 1) 島田道子・関根透：「本学歯学部学生の医療倫理に関する意識調査報告—第一報—」一年生対象パイロット調査結果—，鶴見大学紀要第51号人文・社会・自然科学編9-15, 2014；関根らの過去の調査報告はいくつかの論文にまとめてあり、主なものは第一報にて紹介している。：p.9, p.13, 註1(p.13-14)
- 2) ①関根透, 北村中也, 佐野祥平, 松平文朗, 澤秀樹：「歯学部学生の抱く医の倫理について—本学歯学部学生の学年別に見た意識調査結果—」鶴見歯学第19巻第3号, 1993 p.359 およびp.366 註の文献2)；②たとえば、歯科医療総論研究会編：『総論の要点3』歯科医療総論序文 学誠書院 1989 でも言及されている。
- 3) 医学・歯科医学教育の在り方に関する調査研究協力者会議（文部科学省主導），「21世紀における医学・歯科医学教育の改善方策について—学部教育の再構築のために」別冊「歯科医学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン」2001年3月27日
- 4) モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会、モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門委員会、「歯学教育モデル・コア・カリキュラム—教育ガイドライン—」平成19年度改訂版の冒頭「歯学教育モデル・コア・カリキュラム：教育ガイドラインの改訂に当たって」に成立当初の事情が報告されている。
- 5) 倫理教育に関する調査は、たとえば大学側（学長、学部長など）に対する調査報告として、調査日が少し古くまた医学部、医科大学対象だが、次のような論文がある。  
赤林朗、宮坂道生、甲斐一郎、大井玄：「医学部・医科大学における医の倫理教育に関する調査報告」，医学教育 第30巻第1号、1999年2月。これは教える側の医療倫理教育への理解や取り組みを問うものである。  
また宮坂道夫、山内春夫、出羽厚司、櫻井浩治：「生命倫理教育についての新潟大学医学部5年生に対する意識調査」，医学教育 32巻 第6号427-432, 2001は医療倫理と結びつく生命倫理に対する意識を調査するものであるが、より具体的な内容に踏み込んだ調査となっており、本調査のように基本的な項目を問うものではない。
- 6) 清水良昭は次に挙げる本の8章「歯学教育における倫理委教育」の中で全学年を通じた授業の組み方のモデルを提案しているが、本学の組み方はほぼこのモデルに応じており、実践例といえる。：シリーズ生命倫理学編集委員会編（編集代表栗屋剛；責任編集 伴伸太郎 藤野明宏）：『シリーズ生命倫理学19 医療倫理教育』丸善出版 175-176 2012
- 7) 註2①と同一論文：鶴見歯学第19巻第3号, 359-367, 以下で



は研究報告(1)と記す。

- 8) 関根透, 佐野祥平, 北村中也: 日本歯科教育学会雑誌 第8巻 第1号 83-88, 1992 以下では研究報告(2)と記す。
- 9) 北村中也, 関根透: 鶴見歯学第10巻第3号469-475, 1984 以下では研究報告(3)と記す。
- 10) 研究報告(1)(2)の報告による。
- 11) 研究報告(1) p.361
- 12) 研究報告(3) p.472
- 13) 研究報告(1) p.363, (2) p.85-86
- 14) 研究報告(1) p.364, (2) p.86
- 15) 研究報告(1) p.365, (2) p.86
- 16) 研究報告(1) p.365-366 (3) p.473
- 17) 調査時と重なる時期の出版物では、ラディカルに批判している本としてたとえば岩田健太郎:『「患者様」が医療を壊す』新潮選書 2011; 生命倫理のあり方を問い直すことをテーマとした本の一例として安藤泰至編:『いのちの思想を掘り起こす』岩波書店 2011 等がある。